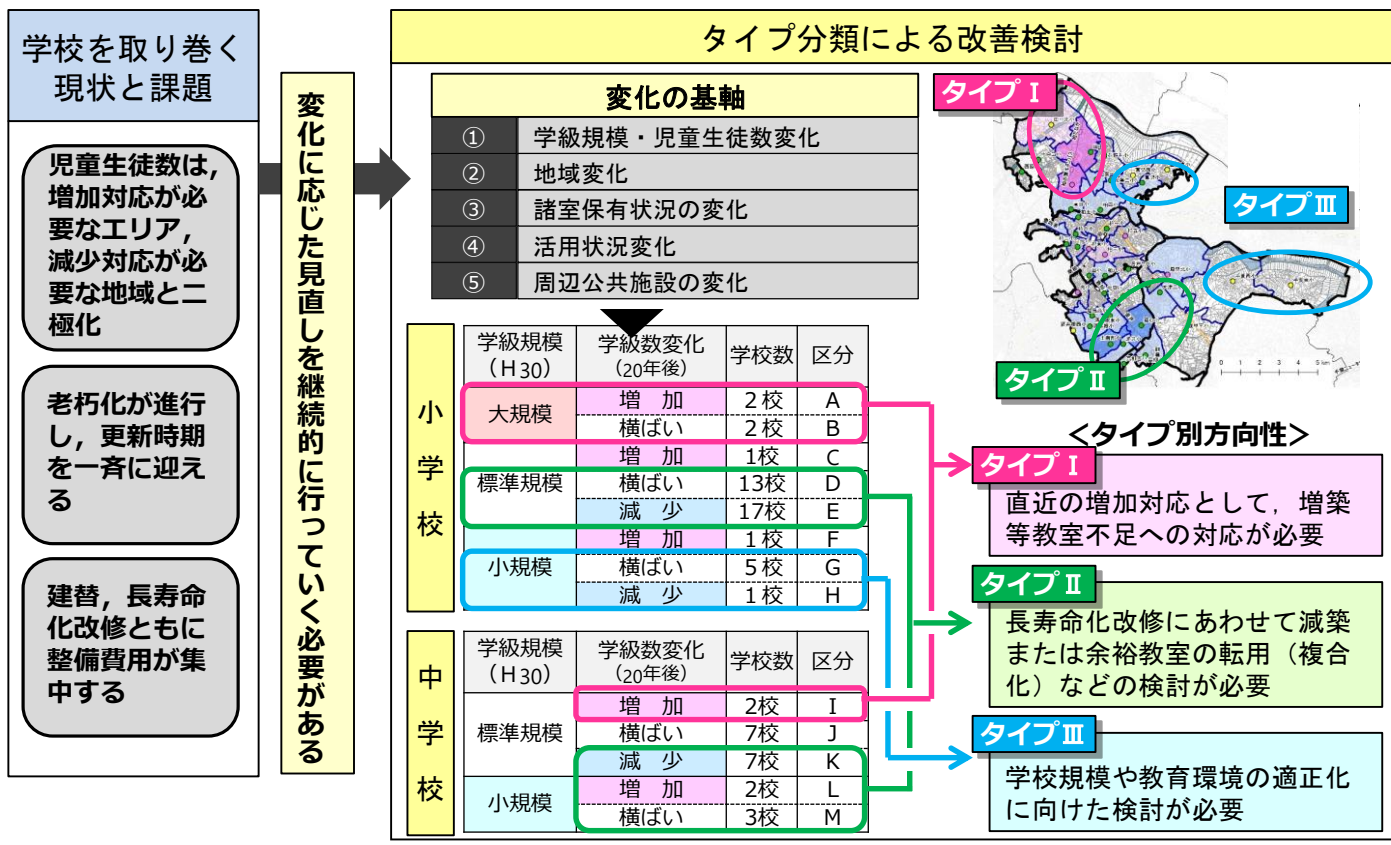


5 さらなる改善に向けて

限りある予算の中で着実に本計画を実行するためには、さらなる経費縮減を図り、施設の縮減を行うことが必要です。そこで、学校規模だけでなく、各学校をタイプⅠ～Ⅲに分類し、将来変化に応じた学校施設の見直しを検討します。

学校適正規模を下回り一定の教育環境が維持できない場合には、学区再編や隣接校との集約化（統合）などの検討を始めるとともに、余裕教室が発生する学校は減築や複合化を進めます。



6 本計画の継続的運用方針

情報基盤の整備と活用

適切な教育環境を維持するためには、継続的な調査により施設の状況を把握することが重要です。そのため、法令に基づいた定期点検とあわせた劣化状況調査を実施し、情報の更新や本計画の見直しに活用します。

推進体制等の整備

本計画は、学校施設を所管する教育委員会が中心となって推進していきます。他の施設と複合化を検討する場合は、より有効な活用が図れるよう関連部署と連携・協力しながら行います。

フォローアップ

学校教育を取り巻く環境の変化や、児童生徒数の動向など、将来変化を反映するため5年ごとに計画の見直しを行います。また、上位計画である柏市公共施設等総合管理計画を踏まえ、本計画を市全体の公共施設マネジメントの一環として進めていきます。

柏市立学校施設個別施設計画 概要版

1 目的、位置づけ、計画期間、対象施設

柏市立学校施設個別施設計画（以下「本計画」という。）は、上位計画である柏市公共施設等総合管理計画に基づき、市内の学校施設の老朽化等の状況を把握し、施設の中長期的な維持管理等に係る費用の縮減・予算の平準化を実現しつつ学校に求められる機能を確保するものです。

小学校・中学校・高等学校の64校を対象とし、2016年度から2055年度までの40年間で4期に分け計画を策定します。

2 学校施設を取り巻く現状と課題

課題① 児童生徒数の変動傾向 ＜地域によって異なる状況＞

今後も増加傾向が続き、急増対策に優先的に取り組む必要がある北部地域や、すでに減少傾向となっており、余裕教室活用や減築などの検討が必要な南部地域など、学校施設や地域の状況によって対策が異なります。

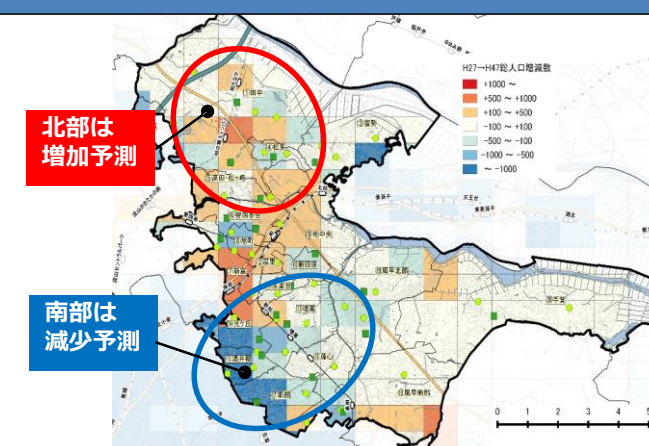


図 2015年から2035年の人口変化

課題② 老朽化の進行

築30年以上経過した建物が全体の約80%を占め、老朽化が進んでいます。

安全性を確保しつつ、適切な教育環境を維持するために、施設の老朽化対策が重要な課題となります。

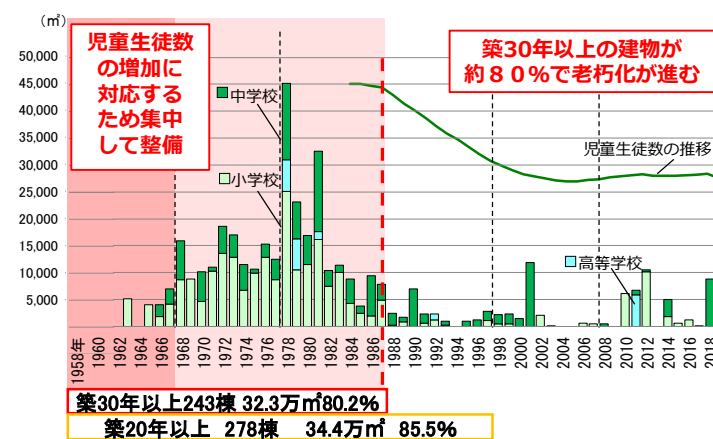


図 築年別整備状況

課題③ 整備時期の集中

「築40年で長寿命化改修（老朽化対策）を行い、築80年で建替」と仮定すると、長寿命化改修、建替ともに整備時期が集中し、短期間で多くの整備費用が必要になります。

整備時期を分散させて平準化することが必要です。

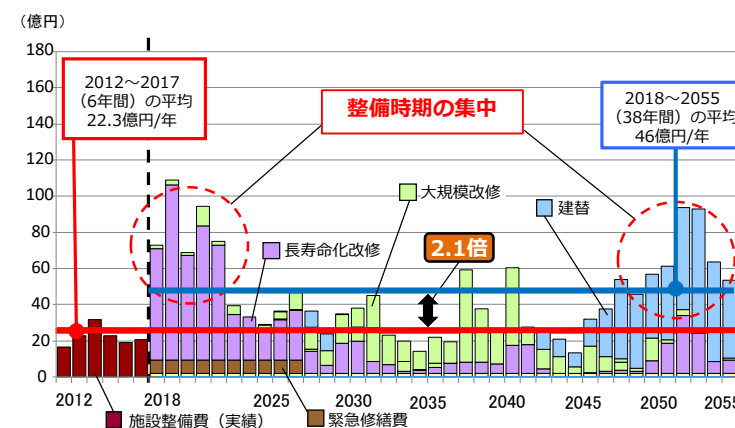


図 築40年で長寿命化改修を実施、築80年に建替をした場合

3 学校施設整備方針

建替と長寿命化の併用による効率的な施設整備

- ・ 築年数，改修履歴及び現地調査から，長寿命化改修だけでなく建替を含めた整備方式を設定し，優先順位をつけて効率的に実施
- ・ 長寿命化改修を実施した学校施設は改修後40年使用
- ・ 建物の目標使用年数は60年から80年へ延長

地域の実情に応じた効果的かつ段階的な対策の実施

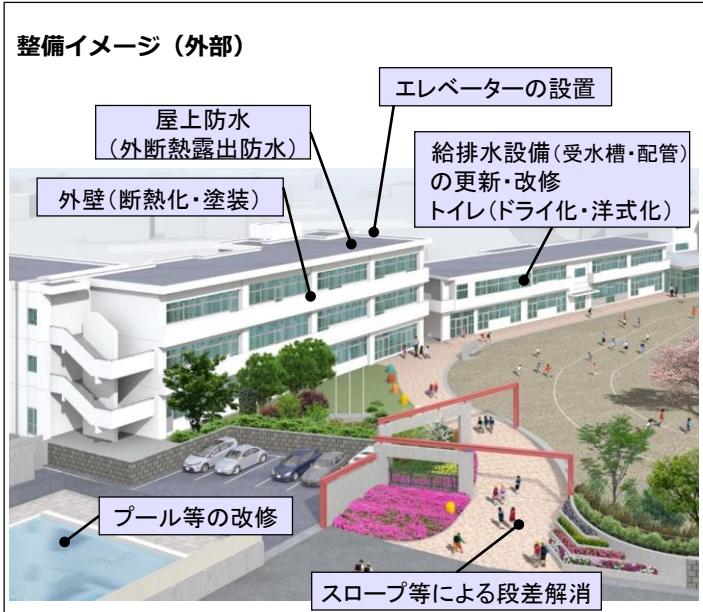
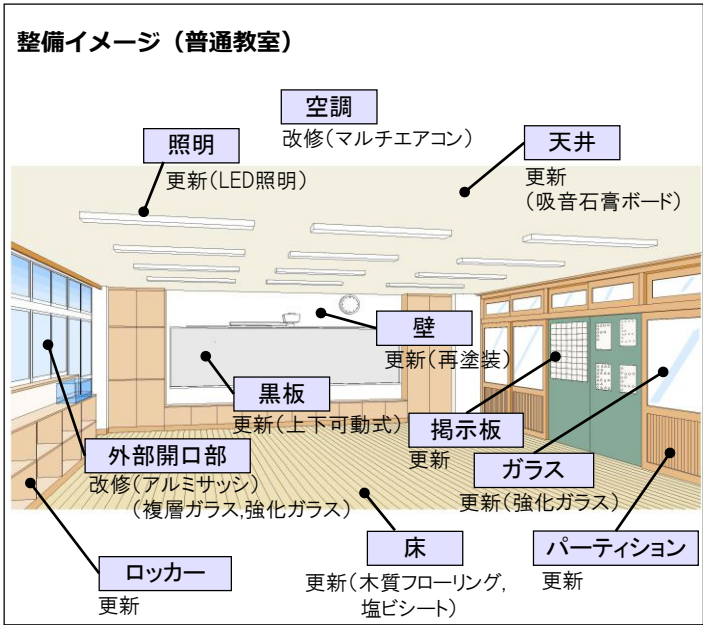
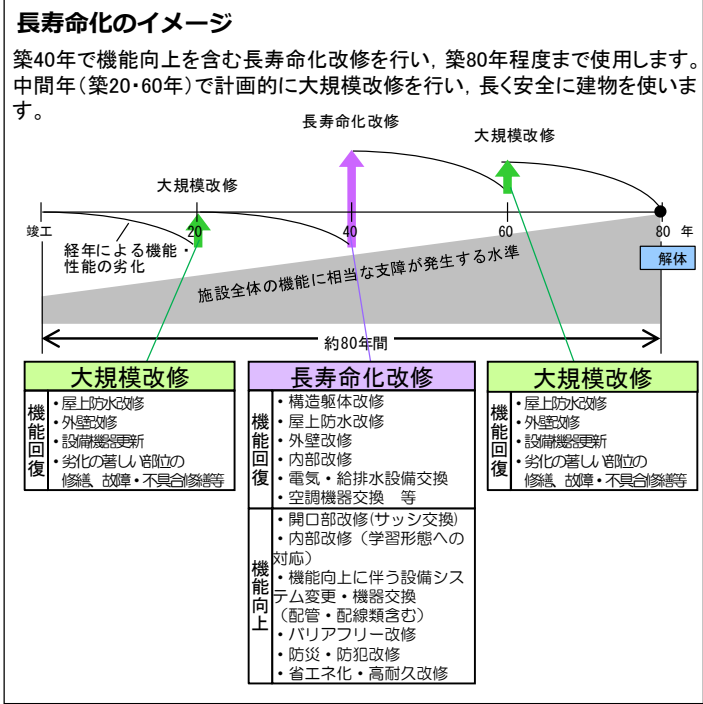
- ・ 増加予測校は，特別教室の転用や校舎の増築により教室不足に対応
- ・ 減少予測校は，余裕教室の転用や減築を実施
- ・ 学校適正規模を外れ，一定の教育環境を維持できない場合は，学校の分離新設，隣接校との集約化（統合）など，学校規模や教育環境を適正化に向けた検討を実施

新学習指導要領への対応等教育環境の充実

- 新学習指導要領に対応し主体的・対話的で深い学びを実現するための教室整備を意識し，新たな整備水準を設定
- ・ ICTを活用した教育に対応可能な普通教室，メディアセンターを整備
 - ・ 様々な教育に活用できる多目的教室を整備
 - ・ エレベーターや，スロープの設置などを実施し，バリアフリー化によるインクルーシブ教育へ対応

学校施設の有効活用（複合化・共用化）

- ・ 余裕教室を有効活用できるよう教室配置を検討
- ・ こどもルームや図書館分館など他施設との複合化や共用化について検討
- ・ 用途ごとにセキュリティを分け，学校運営に負担のないよう配慮



4 学校施設長寿命化計画

整備方式

校舎は学校単位で4つの整備方式に区分します。築20年以内の学校と長寿命化に適さない学校は大規模改修型とします。（右表）

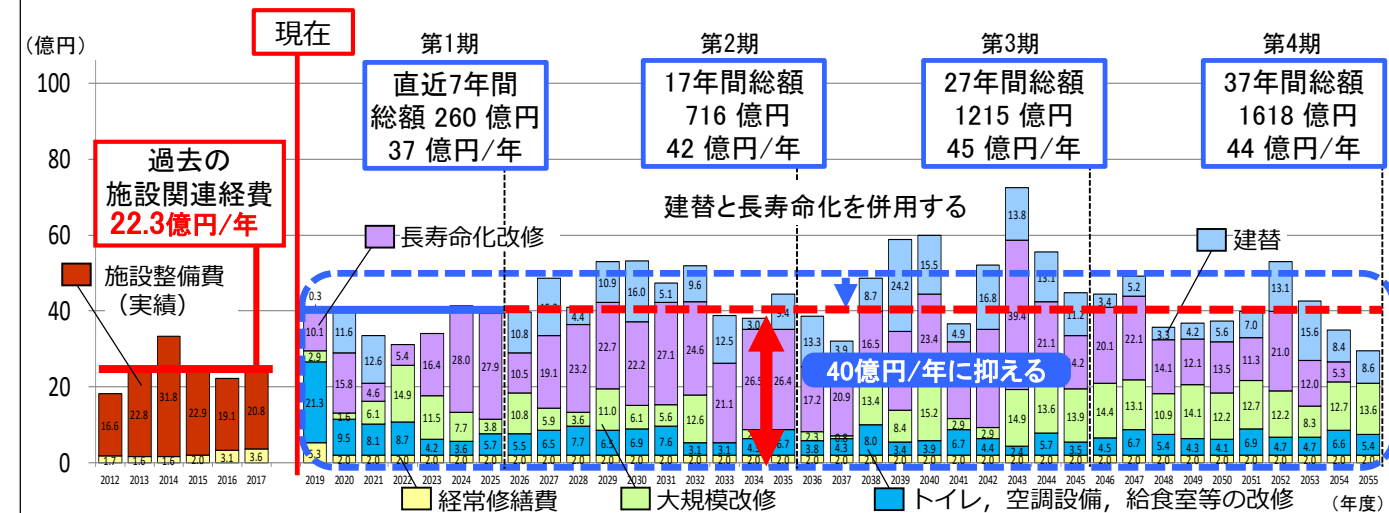
屋内運動場は全て長寿命化改修を実施し，改修後40年使用します。

校舎整備方式	整備方針	整備内容
全体建替型	整備実施年に全ての棟を建替	児童生徒推計を反映させ、校舎の規模を決定し，全棟の建替を行う。
長寿命化型	整備実施年に全ての校舎棟を長寿命化	躯体の老朽化対策と、外部・内部の改修を行い，機能向上を図る。また、増築・減築等の検討を行う。
建替・長寿命化併用型	1971年以前の建築の棟は建替、1971年以降の建築の棟は長寿命化	建替建物は児童生徒推計を反映させ、校舎の規模を決定。長寿命化建物は，躯体の老朽化対策と、外部・内部の改修を行い，機能向上を実施する。
大規模改修型	大規模改修を実施し、20年後に長寿命化 大規模改修を実施し、20年後に建替	機能回復を主とし，劣化状況に応じた外部・内部の改修を行う。

長期の整備費用

財政目標ラインを40億年に設定し，長寿命化改修後40年間建物を使用することを前提に整備費用の想定を行ったところ，計画期間は概ね平準化でき，建替の集中も削減できました。

さらに，児童生徒数の実態に合わせた適正配置・適正規模化による費用削減を図り，財政目標ライン内で本計画を実施するものとします。なお，財政目標ラインは，社会経済情勢の変化に伴う柏市の財政状況により見直しをします。



整備スケジュール <第1期～第4期>

老朽化状況，棟の経年および，各棟の面積を勘案し，今後37年間で財政目標ラインにおさまるように各学校の整備スケジュールを設定しました。整備スケジュールは，適正配置・適正規模化の検討結果，柏市の財政状況及び本計画の進捗状況にあわせ，見直しをします。

区分	校 舎		屋内運動場	
	小学校	中学校・高等学校	小学校	中学校・高等学校
第1期 (2019～2025)	7 校	3 校	1 2 校	9 校
第2期 (2026～2035)	1 5 校	4 校	2 2 校	9 校
第3期 (2036～2045)	1 3 校	9 校	2 校	1 校
第4期 (2046～2055)	7 校	4 校	2 校	1 校